

復讐が終わってみると、それが正しかったのかわからなくなった。
あの時の私には怒りしかなかったから、正常な判断はつかなかった。

私は決して、彼らを殺したことが間違いだったなんて思っていない。
他の誰が何と言おうと、私は彼らに死んでほしかった。

ただ、”その役目を人に押し付けてしまった”
多分、私はそこが引っかかっている。

やるなら、自分の手を汚すべきだったんだ。

だからここへ相談に来るもの達が自分のように、
神の加護を受けて尚迷わずにすむよう、しっかりと相談者を見極めたい。

この教団の在り様が善いことなのかどうか私にはわからない。

わからないが、それでも私は、本来ならば手前で背負うべきだった業を
お優しい教祖様に背負わせてしまった。
その罪は、償いたいのだ。

これ以上、不必要なまでに彼が余計な業を背負うことがないように。